

✿ キトラ古墳壁画が国宝へ

2019年3月18日の文化審議会において、重要文化財キトラ古墳壁画を国宝に指定するよう答申が出されました。キトラ古墳は、7世紀末から8世紀初頭に造営された小さな円墳です。石室の内部には全面に漆喰が塗られ、大陸風のモチーフを題材とした極彩色壁画が描かれていました。このような古墳壁画は、国宝高松塚古墳壁画を含めて国内では2例しか発見されていません。

キトラ古墳の石室には、東西南北の壁面に四神や十二支が、天井に天文図、日月像が描かれており、陰陽五行思想にもとづいた世界観が表されています。石室内における壁画の全体構想が判明する点が極めて貴重であるといえます。また、天井に描かれた天文図は東アジア最古の例とされています。

特筆されるのは南壁に描かれた朱雀です。朱雀は四神の一つとして南方を守護すると考えられている神獣です。高松塚古墳の石室の南壁にも朱雀が描かれていたとみられますが、盗掘の影響で残っていませんでした。日本に現存する朱雀のうち奈良時代以前に描かれたものは少なく、キトラ古墳壁画の朱雀は貴重な遺例です。

壁画は保護のため石室から取り出され、10年にわたる修理作業を経て、現在はキトラ古墳壁画保存管理施設に保管されています。奈良文化財研究所は文化庁の委託を受け、管理や運営、公開事業に協力しています。私たちはこの仕事に携わりながら、貴重な文化財を確実に将来へ伝えていきたいと考えています。

7月20日から8月18日まで開催する「キトラ古墳壁画の公開(第12回)」では南壁を展示する予定です。ぜひ、この機会に実物の朱雀の壁画をご覧ください。

(飛鳥資料館 中田 愛乃)



キトラ古墳の壁画 朱雀